



2019年6月13日

各 位

会 社 名 株式会社 浅沼組  
代 表 者 名 代表取締役社長 浅沼 誠  
ユ-`ト`番号 1852(東証第1部)  
問 合 せ 先 経理部長 兼  
コーポレート・コミュニケーション部長  
八木 良道  
電 話 番 号 06(6585)5500

## ISSレポートに対する当社の見解について

株式会社浅沼組（代表取締役社長 浅沼誠／以下、当社）は、Institutional Shareholder Services, Inc.（以下、ISS）が当社第84期定時株主総会における株主提案である第4号議案「政策保有株式の売却に係る定款変更の件」並びに第5号議案「剰余金を処分する件」への賛成推奨をする旨記載されたレポートを公表したことを受け、下記のとおり補足させていただきます。

第4号議案並びに第5号議案に関する当社取締役会の意見は、本定時株主総会の株主総会参考書類に記載のとおりであります。株主の皆様は改めて本議案に関する当社取締役会の意見をご理解いただきたく、賛否のご判断に資する本レポートに対する当社の見解を下記のとおりご説明いたします。

株主の皆様におかれましては、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

### 記

#### 1. ISS レポートの概要

##### 第4号議案「政策保有株式の売却に係る定款変更の件」

ISSは、当社の政策保有株は、ビジネス強化のために保有されているものの、取締役会はこのことが業務上意味のある支援となっている事例を示していないことから、株主提案に賛成を推奨しています。

##### 第5号議案「剰余金を処分する件」

ISSは、当社取締役会の意見は、株主提案者が指摘しているように、漠然としたニーズに対して現金や有価証券を積上げていること、より高い配当は、余剰資金を株主に還元する効果的な方法であることから、株主提案に賛成を推奨しています。

#### 2. 当社見解

##### 第4号議案「政策保有株式の売却に係る定款変更の件」

当社は、2019年3月末時点で9,442百万円（簿価）の政策保有株式を保有しておりますが、直前期の配当や10年間の年間平均工事粗利益等の便益が当該期末の資本コストを下回る場合には、政策保有株式を縮減する方針としております。

また、個別の政策保有株式の検証については、每期首の定例取締役会において、当該基準を適用するほか、経済的合理性を総合的に勘案した上で、具体的に保有の適否を精査することにより、継続保有と売却の要否を検証しております。

2019年3月末時点では、保有銘柄全体の便益は簿価に対し10%以上の利回りであり、資本コスト5.1%を上回っておりますが、個別銘柄で便益が資本コストに見合わない株式については、2019年3月期中に売却し、その売却資金を自己株式の取得資金に充当しております(取得した自己株式の総数313,600株、取得価格の総額999,933,700円)。

今後とも、具体的な状況に応じ保有の適否を適切に判断することが、企業価値の向上に資するものと考えております。

#### 第5号議案「剰余金を処分する件」

当社は、現預金や年間の利益から生じる資金等の活用につきましては、中期3ヶ年計画(2019年3月期から2021年3月期)において「3年間で技術研究関連とICT関連投資で50億円、コンセッション事業や海外展開投資で50億円、協力会社への支払いの現金化で100億円、合計で200億円の資金を投入する」と明確にしております。そして、このような資金活用は、中長期的に企業価値を増大させ、株主の皆様が安定的かつ継続的に成果を還元するために必要不可欠なものであると考えております。

そして、同計画の初年度となる2019年3月期には、技術研究関連投資とICT関連投資で15億円、海外M&Aで5億円、協力会社への支払いの現金比率向上で100億円、合計で120億円の資金投入をしており、現預金の現状の水準は資金計画上適切な水準となっております。

従いまして、実質的に当社親会社株主に帰属する利益の100%の配当を求める本議案は、当社の株主還元の基本方針及び今後の資本活用策に合致せず、当社の中長期的な企業価値向上に寄与しないと判断しております。

なお、Glass, Lewis & Co., LLC(「グラスルイス」といいます。)は、株主提案である第4号議案並びに第5号議案への反対を推奨しています。

以 上